

テキストマイニング法を用いた飲食店の立地と 差別化要因に関する一考察

— 歌舞伎町にある酒場 374 店舗を対象にして —

日大生産工 ○笹山祐希 水上祐治

1. 研究目的

国土交通省環境庁は、力経済力強化の方針の一つとして観光立国推進基本法を掲げている[1]。また、2020年には東京オリンピック開催が控えており、国内のみならず、外国からのインバウンドの旅行者の増加が見込まれている。そして、これら旅行者の受け入れに関して、多くの分野で研究が進んでおり、飲食業界においても議論が盛んである。例えば、有岡・高山は、日本の飲食店では、宗教やベジタリアン等の多様な食習慣への対応は、充分ではないと指摘しており、改善手法を提示している[2]。

また、飲食店に関する別の視点として立地に関する研究がある。例えば、長谷川らは、飲食店の特徴として、賑わいを演出するために飲み屋街というクラスターを形成することを指摘している[3]。

本稿は、観光立国推進基本法、東京オリンピックにて、今後、さらに賑わうことが想定される都心の繁華街において、飲み屋という同業が乱立する立地で、それら業者がどのように住み分けているかを明らかにして考察を展開するものである。

2 調査対象地域

本稿では、分析対象地域として、東京都新宿区歌舞伎町近隣の繁華街クラスター（以下、歌舞伎町）を取り上げる。図1に歌舞伎町の酒場全374店舗（2019年10月1日現在のGoogleマップの情報）の立地を示す。歌舞伎町には、酒場が集中しており繁華街を形成していることが示されている。



図1：歌舞伎町にある酒場全374店舗—Google マイマップ

3 分析方法

分析情報の収集では、まず、Googleマップ[4]にて、検索ワード「歌舞伎町 バー」にて収集した。抽出された情報は374店舗であった。次に、食べログ[5]にて、検索エリア「歌舞伎町(東京都 新宿区)」、検索キーワード「バー」を用いて、それら酒場の平均予算等の詳細情報を収集した。最終的な分析対象の酒場は、欠損値があるものを除いた104店舗である。収集した項目は、“駅からの距離”、“お店の評価”、“平均予算”、“口コミ”である。

分析では、KHcoder[6]を用いて、テキストマイニング分析にて語句の抽出、そして、共起ネットワーク分析を用いて、平均予算別分類にて語句の関連性の高い項目を抽出した。

4 分析結果

図2に歌舞伎町にある酒場における平均予算別の共起ネットワーク図を示す。図の周辺部の語句は、各平均価格特有のもの、図の中心部にある語句は、複数の平均価格に共通するものである。

Consideration on restaurant location and differentiating factors

using text mining method — Consideration

(— Targeting 374 taverns in Kabukicho —)

○Yuki Sasayama and Yuji Mizukami

